

# くすのき



岡本小学校 学校だより

No.14

令和3年12月23日

『生き生き学校』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



## 全校遊び～なかよし班集会～での学び

つい先日までは校庭のいちようが美しく彩られていましたが、今は池の水に薄氷がはっています。季節の移ろいの速さを感じる今日この頃です。

落ち葉をはいていた時、近くを通りかかった子どもたちが、「校長先生、ありがとうございます」「お疲れ様です」などと、言葉をかけてくれました。学校を大切に思う気持ちが伝わるとともに、こんな素敵な言葉を進んでかけられる子どもたちの成長に感動します。

さて、先日は久しぶりに全校が集い、集会活動を行いました。今年度2回めの仲よし班集会です。今回は、5年生が全校のリーダーとなり、企画から運営まで担いました。30分の集会活動のために、5年生はかなり前から入念に準備を進めてきました。

まず、1年生から6年生までみんなが楽しめる遊びは何かを考え、計画書を作成しました。次に6年生からアドバイスを受けて修正案を検討し、最終的には担当の先生から了承を得て、当日を迎えました。

前日からライン引きや準備物の用意をし、12月9日(木)の長昼休みはいよいよ本番です。ドッジボールや田文字鬼ごっこなど遊びの種類も豊富で、子どもたちはほっぺたを真っ赤に、満面の笑みを浮かべて全力で遊びました。

「もっと遊びたい」  
「時間が短すぎ」…  
下学年の子どもたちは口々に楽しさを表現していました。

一方、裏方となって5年生をサポートした6年生の姿にも成長を感じました。



話し合いがすごく大変だったので「やってよかった」という気持ちが大きかったです。田文字鬼ごっこをやっている最中や終わりの時に、「楽しい」や「楽しかった」と言ってもらってすごくうれしかったです。

ぼくは、みんなで楽しくあそべて良かったです。ぼくたちで計画を立てて、自分たちでやってきました。これからも、自分たちでできるということを大切にしていきたいと思います。

5年生の振り返りの感想からは、自分たちの力でやり遂げた充実感が伝わってきました。

「存在感」「承認」「貢献」は、自己有用感を高めるための三要素と言われています。なかよし班活動を通して、特に高学年の子どもたちは、

「自分に役割があること（貢献）」  
「自分もやればできるじゃんという感覚（存在感）」  
「楽しかったよ！ありがとう！という言葉（承認）」  
を受け止めることができました。

冬休みがあげると、6年生は卒業に向けて、5年生は「6年生を送る会」に向けて、4年生以下の子どもたちも次の学年に進級するための準備を進めていきます。

その学年の役割が次の世代に受け継がれていくように、岡小の子どもたちの優しさ、素直さ、一生懸命さなどの良さも、受け継がれていくことを期待しています。

## 思い出の修学旅行

12月10日(金)、6年生が修学旅行に行ってきました。行き先は、昨年度同様、富士急ハイランドです。引き続きコロナ感染症予防のため、日帰りでの実施となりましたが、今年度は時之栖での夕食バイキングとイルミネーション見学も盛り込みました。点検のために動いていないアトラクションもいくつかありましたが、それでも子どもたちは思い思いの楽しみ方を工夫していました。

「家に帰ってきて、息つく間もないくらい、たくさん思い出話を語ってくれました」  
保護者の方からも嬉しい声が届いています。

6年生の保護者の皆様におかれましては、当日までの体調管理等、ご協力ありがとうございました。

## プログラミング学習

12月6日、7日の両日、教育ネットさんを講師にお迎えし、4年生以上がプログラミング学習を行いました。

<4・6年生>プログラミングロボットを動かそう  
<5年生>プログラミングカーを走らせよう  
自分たちが作ったプログラム通りにロボットや車が動くことに、感動していました。

GIGAスクールが始まり、岡小の子どもたちは積極的にタブレットを使うようになりました。学びに広がり生まれていますが、今後もルールを守って使用できるように、家庭とも連携しながら指導していきます。

## 電車にのって

11月26日(金)、1年生が大雄山線に乗って諏訪の原公園へ校外学習に出かけました。マナーを守って電車に乗ることも大事な学習の一つです。

元気一杯に帰ってきた1年生から、「長い滑り台が楽しかった」「お弁当がおいしかった」「行きは登り坂で疲れたけれど、また行きたい」と、楽しかった様子が語られました。久しぶりの非日常を思いっきり楽しんだ様子です。

## 書初めに初挑戦

3年生が、初めて書初めに挑戦しました。大きな紙を前に最初のうちは戸惑っていましたが、学習ボランティアの渡邊先生から、太く大きく書くコツを教えてくださいました。枚数を重ねるごとにどんどん上達していききました。

今年度も、渡邊先生には3～6年生の書初め指導をしていただきました。

「どの子も、上達したいという意欲をもって学んでいるので、やりがいがあります」と、おっしゃっていました。



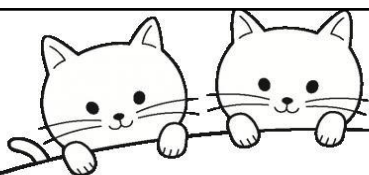
## 収穫の喜び

2年生が生活科で植えた大根が大きく育ち、収穫の時期を迎えました。

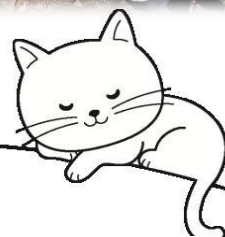
なかなか自力で抜けない友達のために、周りの土を柔らかくしてあげるなど、友達同士で自然と協力する姿も見られました。

今年も育ちがよく、大きな大根を抱えて満足げに持ち帰りました。

ご家庭での味つけて、ぜひご賞味ください。



わたしのひとりごと…



早いもので、今年もあと2週間となりました。この一年、皆さんにとってはどんな年になりましたか？

学校現場は、昨年に引き続き、今年もコロナに始まりコロナで終わりそうです。しかし、昨年に比べて格段に違うことがあります。それは、昨年よりもできることが少しずつ増えているということです。体育フェスティバルの表現運動、少し遠めの校外学習、家に居ながらのリモート学習、クリーンクリーン作戦等…コロナ禍でも「これならできる」という範囲が広がっています。

実現可能な幅が広がってきたのは、これまで学校が持っていた「物差し」を疑うことを始めたからだと思います。これまでの長年の経験や学校文化を通して、「これできない」「これはダメ」と判断していたことを、「果たしてそうなの？」といったん疑ってみることをし始めたのです。

「ダメな理由はないよね」「それもアリだよね」という視点が増え、「じゃあ、やってみようか。もしうまくいかなかったら、改善点を洗い出して次につなげよう」

こうした発想の転換ができるようになったことは、今年の大きな財産だと思います。

発想の転換…これは、子育てにも通じることがあります。私たちは、つい、子どもたちの困った行動や問題行動に対して怒りがわいてしまっています。それは、自分の思い描くような子になってほしいために、自分の枠からはみ出すことを受け入れがたいからです。子どものダメなところしか見えなくなつた時には、別の人が投げかけてくれた「別の物差し」を使ってみてください。きっと、その子の光る良さが見えてくることでしょう。

自分の心に引っかかる荷物はいったん置いて、新たな気持ちで新年を迎えたいものです。今年もあたたかなご支援ご協力に心より感謝申し上げます。良いお年を…。